

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2012.12 vol. 80

第1回地域医療連携懇談会を開催して



当院は、平成18年鹿児島医療センターと改称し、循環器・脳卒中・がん診療の拠点病院として地域医療への貢献を目指してきました。

去る11月6日（火）、第11回鹿児島医療センター主催地域医療支援病院運営委員会を、鹿児島サンロイヤルホテルにて開催しました。

外部よりご出席の方々は、鹿児島市医師会副会長：猪鹿倉忠彦先生、鹿児島県薬剤師会会長：内野悟先生、鹿児島市消防局警防課救急係主査：吉富勇一氏、鹿児島市保健所所長：徳留修身先生の4名でした。当院からは、院長、副院長、臨床研究部長、事務部長、

看護部長、薬剤科長、および事務（経営企画室長、外来係）とメディカルサポートセンター（地域連携室室長、退院調整看護師長およびMSW2名）からのスタッフが参加し、①紹介率・逆紹介率の年度別および月別推移、②救急車搬送数及び救急患者取扱件数、③大型医療機器共同利用の実績、④地域の医療従事者向け研修実績等の現況報告をしました。当院の運営および連携について有益なご質問やご意見をいただき、約1時間にわたり活発な討議がなされました。また、運営委員会の後には第1回目の地域医療連携懇談会を開催しました。院外からは134名出席して頂き、院内から130名が参加しました。

山下正文院長の開会挨拶に始まり、厚生連病院の前之原茂穂院長に連携医療機関代表の挨拶をして頂きました。

当院から、

- ①「循環器疾患の検査、治療について」；第二循環器科医長 園田正浩
- ②「耳鼻咽喉科診療の現況～連携と頭頸部がん診療～」；耳鼻咽喉科医長 松崎 勉
- ③「脳血管内科治療と連携の現状」；脳血管内科医長 松岡秀樹
- ④「メディカルサポートセンターの紹介」；退院調整看護師長 永重ひとみ

を報告しました。演者がそれぞれ熱弁をふるって発表しました。

乾杯のご発声を鹿児島市保健所の徳留修身所長より頂き、花田副院長の司会進行により当院のスタッフが紹介されました。

当院の地域連携室の今後の在り方について貴重なご意見を多数頂きありがとうございました。今回の懇談会は初めての試みであり、研究会形式が良いのではとの意見もありましたが、“顔の見える連携室を目指していく”方針から、今回の形式にさせて頂きました。運営委員会および地域医療連携懇談会に参加して頂いた皆様にはご多忙の中ありがとうございました。また、開業医の先生方は診療時間の関係でご出席できない先生もたくさんおられたとのことですので、今後の開催日時参考させて頂きたいと思っております。至らぬ点が多々あったかと思っておりますが、反省を通じて、より良い会を目指していきたいと思っております。次回は他職種の方もより多くご出席して頂けるように早めに連絡をしたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

鹿児島の医療のために、地域医療連携を通して、当院の役割を粛々と果たしていく所存ですので、今後ともどうぞご支援、ご指導よろしくお願いたします。

（文責：地域医療連携室長 園田 正浩）



『第61回おはら祭り』に参加して



11月の2日3日と鹿児島市にて南九州最大のお祭り『おはら祭り』が開催されました。第61回おはら祭りは、鹿児島市電車運行100周年記念として開催され、当院は昨年に続き11月2日夜祭りにおおよそ182名で参加いたしました。

6月に申し込みを行い、職員へは7月から参加の呼びかけを行いました。踊りの講習会については、当院の看護師が講師となり、祭り前日までに3回実施しました。病院長、副院長が率先して講習会に参加され、1時間の練習時間でしたが、開始時間よりも早く、また終了時間は延長して、3回目の講習会では、たくさんの職員の輪が出来ていました。全体講習会に参加できないセクションはそれぞれで練習を行いました。準備をしていく中で、皆さん本番に向かい気持ちを高めていったように思います。

いよいよ11月2日の本番を迎えることとなりました。当日は朝からなんとなくソワソワした空気が流れる中、定時で仕事を終えると17時30分に鹿児島医療センターの踊り連が1階フロアに集合しました。医師や看護師等、日頃の白衣姿から一変してハッピー浴衣姿に変身。ハッピー姿が約160名、ゆかた姿が約30名の大踊り連が完成しました。記念撮影や軽く腹ごしらえをし、いよいよおはら祭りへ出発です。まず、1階フロアにて入院患者さんへのお披露目をした後に桟橋交差点付近に集合しました。開始が待ち遠しく、踊りが始まると、冷たい風の吹くなかの踊りでしたが、日頃の練習の成果やストレスを一気に発散しているようで、皆楽しそうに踊っていました。また、今年はおランダからの留学生も参加され、浴衣姿で覚えたてのおはら節を楽しそうに踊っていました。鹿児島の思い出になったのではないのでしょうか。

アルコールも入ったこともあって、自由踊りのころには最高潮に盛り上がりました。その後、病院に戻って片付けなどをした後、打ち上げ・二次会・三次会と夜は更けていきました。

今回参加して、鹿児島医療センタースタッフの団結力を感じることができました。そして何より、院内でのお披露目の時の患者さんの笑顔を見ると、いろいろ苦労したことが吹き飛び、また来年もぜひ参加したいと思いました。

(文責：看護師長 永重 ひとみ)

私たち、鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校の自治会員 155名は、11月3日に開催されたおはら祭りの総踊りに参加しました。9月から連日、昼休み・放課後の時間を調整して練習に励みました。踊りを覚えるのは、思った以上に時間がかかりました。全員の呼吸を合わせて踊るのは難しかったですが、友達同士で教えあい練習を重ねた結果、少しずつ、リズムもあってきました。音に合わせてだけでなく、徐々に互いの心がつながるような一体感が生まれました。

本番当日、お揃いの赤い法被を身にまとい「踊りはじめ」の掛け声とともに、踊り始めました。一斉に息を合わせて踊り始めた瞬間は何とも言えない感動でした。その後は、全員がリラックスした様子で、お囃子のリズムに合わせて練習の成果を笑顔で発揮できました。それに刺激され教員も飛び入り参加で一緒に踊られました。参加者全員で成し遂げた達成感を感じました。

今回おはら祭りに参加したことで、いろいろな人と手を携えて成し遂げるとい、「団結力」「チームワーク」の大切さがわかりました。日ごろお世話になっている地域の方々や実習で受け持たせていただいた患者家族の皆様にも、私たちのことを知っていただきたいという気持ちと感謝の気持ちを精一杯お伝えしました。

来年も自治会員のメンバーが元気に踊りますので、応援してください。

(文責：2年 立石 有美花)



診療ひとくちメモ 「無菌室増床」

平成24年の暮れも押し迫り、血液内科では西4階病棟に無菌室の増床工事を始めました。現在5床の無菌室がありますが、個室2床、4人部屋3室が新しく無菌室となります。今年4月からは全身照射も導入され、平成24年後半から造血幹細胞移植の件数が増加してまいりました。血縁ではなかなかドナーが見つからないこともあり当院の患者様の多くも骨髄バンクの非血縁ドナーからの移植を受けています。平成24年10月の時点での骨髄バンクのドナー登録者数は421,875名となっていますが、それでもなかなかドナー検索が進まず難渋することもしばしばあります。ドナー検索はまず患者登録してからHLA一致ドナー（あるいは一座不一致ドナー）を選択していきます。選択されたドナーへバンクから連絡を行い、確認検査（健康診断）を行います。一位に選択されたドナーは最終同意面談、術前検査、自己血貯血等の段階を経て骨髄採取となります。当院は骨髄バンクの認定施設となっていますので、当然逆にドナーの骨髄採取も施行しています。全く見ず知らずの何処で治療を受けていらっしゃるかわからない患者様のために骨髄を提供して下さるドナーの方にいつも頭の下がる思いです。採取された骨髄は移植施設の方へと手渡し、移植施設へ運ばれその日のうちに患者様へ移植されます。患者様や他の病棟にもご協力をいただき14床同時に工事を始めましたが、この無菌室増床により今後の移植治療に貢献できればと思います。

(文責：血液内科医長 大塚 真紀)

職場紹介・東7階病棟

当病棟は循環器内科、糖尿病・内分泌内科の混合病棟です。循環器内科の主疾患は、心筋梗塞や狭心症の虚血性疾患で、心臓カテーテル検査やバルーン、ステント術など治療目的の入院患者が全体の約7割を占め、年間約1000件のカテーテル検査や治療が行われています。一時・恒久ペーシングでは年間約60件の手術も行われ、循環器疾患患者の検査治療に対する看護を提供しています。また、心不全患者については、加療・看護を行いながら、パンフレットを用いた生活指導やMSWの早期介入による退院支援カンファレンスに取り組み、転院先の調整にも関わっています。

糖尿病・内分泌科においては、医師や他職種と連携し患者様の自律性が高められるように援助しています。糖尿病チームを中心に入院早期より服薬指導や栄養指導、生活指導など個別指導や集団指導に取り組み、早期回復・早期社会復帰を目指し、状況によりMSWや臨床心理士が介入して、患者・家族がセルフケア能力を高められるように援助しています。

さらに、院内2人目となる糖尿病看護認定看護師が誕生し、糖尿病療養指導士4名、フットケア資格取得者4名がそれぞれ専門性を活かし、外来と連携を図りながら心理面・自己効力感を高められるような関わりを行っています。また、糖尿病週末教育入院では、週末を利用した糖尿病体験入院を導入し地域との連携も図っています。

当病棟では、入院早期からの不安の軽減を目的に、外来受診で入院予約が決定した時と入院当日にメディカルサポートセンターの活用にも取り組んでいます。

(文責：看護師長 田上 さとみ)



新任紹介



内科
レジデント
まえだ ひとみ
前田 仁美

平成24年11月より2ヶ月間血液内科でレジデントとして勤務させて頂いております。実家が近所だったこともあり、幼少期は当院の官舎に住む同級生と敷地内や裏のお寺でよく遊んでおりました。その頃とは病院もすっかり変わっており、驚くばかりです。当院での勤務は初めてですので、まだまだ慣れない点が多いですが、先生方を始め、看護師さん・コメディカルの方々にその都度優しく教えていただき、日々感謝しております。2ヶ月という短い間ですが、今後とも宜しくお願い致します。



麻酔科
レジデント
かわばた さきこ
川畑 咲子

12月より麻酔科レジデントとして勤務させて頂いております。当院での勤務は初めてで院内で迷ったり、システムに慣れるのに苦労している毎日ですが、心臓血管外科麻酔が多く経験できるため、自身の研鑽と共に、僅かでも貢献できるように頑張りたいと思います。

当科に加えて、各診療科の先生やスタッフの皆様にご迷惑をおかけしますが、1日も早く慣れて仕事ができるように努めますので、今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

1

月看護研修のご案内

主催 鹿児島医療センター看護部教育委員会

心不全患者の退院指導

- 日 時：平成25年1月28日（月）18時30分～19時30分
- 場 所：大会議室
- 講 師：慢性心不全看護認定看護師 山角 直子

※ 参加ご希望の方は準備の都合上、各コース3日前までに教育担当(中村)までご連絡下さい。院外の方のご参加をお待ちしています。

電話 099-223-1151 (内線 7303) FAX 099-226-9246

循環器合同カンファレンスへのお誘い

当院では、毎週月曜日午後6時から手術適用症例などについて、循環器内科・心臓血管外科・麻酔科・リハ科など合同で症例検討会を開いています。オープンですので治療方針等について悩んでいらっしゃる症例がありましたら提示していただき、一緒に検討できればと思います。遠慮なくご参加お願い致します。

問い合わせ先 鹿児島医療センター 地域医療連携室

電話 099-223-1151 (内線 7344) FAX 0120-334-476

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域医療連携室】 菌田・今泉・永重・重吉・森・吉留・梁川・酒井・櫻木・近藤
直通電話▶099(223)4425 フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476
※休日・時間外は当直者で対応します。

